

高等学校運動部活動における保護者による期待が選手の競技不安に与える影響に関する研究

黒岩 円絵 (福岡教育大学)

1. 目的

本研究の目的は、高校生において保護者による運動部活動の動機づけ雰囲気が子どもの競技不安に与える影響を明らかにすることである。

2. 研究方法

- 1) 対象者：運動部活動所属の高校生 (205名)。
- 2) 調査方法：質問紙調査にて保護者による動機づけ雰囲気と競技不安を測定した。
- 3) 分析方法：保護者による動機づけ雰囲気 (中須賀ら, 2020) を独立変数, 競技不安の下位尺度 (橋本ら, 1993) を従属変数としたモデルについて共分散構造分析を行った。

3. 結果と考察

1) 心配-不安雰囲気と競技不安の関係

保護者が子どものプレーや技能レベルに対して心配したり、不安に思ったりする「心配-不安雰囲気」は、子どもの競技不安の全ての下位尺度「精神的動揺」「勝敗の認知的不安」「身体的不安」「競技回避傾向」「自信喪失」に有意な正の影響を示した。これは、保護者が子どものプレーや技能レベルに対して過度な心配や不安を抱くと、その心配や不安が子どもにも伝わり、子ども自身も心配や不安を抱くようになることで競技不安が高まるのだと推察される。

2) 低努力-成功雰囲気と競技不安の関係

保護者が子どもに対して、努力なしで勝利や成功を収めることに満足しているような「低努力-成功雰囲気」は、子どもの「競技回避傾向」に有意な正の影響を示した。これは、保護者のあまり努力せずに成功してほしいという雰囲気を認知している子どもほど、結果だけを求められていると感じるため、勝敗のつくような競技場面において逃げたいというような「競技回避傾向」が高まるのだと推察される。

3) 学習志向雰囲気と競技不安の関係

保護者が子どもに対して、勝敗や成績に関係なく、努力によって自分の能力やスキルを高めてほしい

と思っているような「学習志向雰囲気」は、勝敗よりも努力を重視するような雰囲気であるにも関わらず、子どもの「勝敗の認知的不安」に有意な正の影響を示した。この理由として、高校生は競技歴が長く、技術の向上を自他ともに実感しにくいいため、努力の成果を試合の結果で証明するようになるからではないかと推察される。

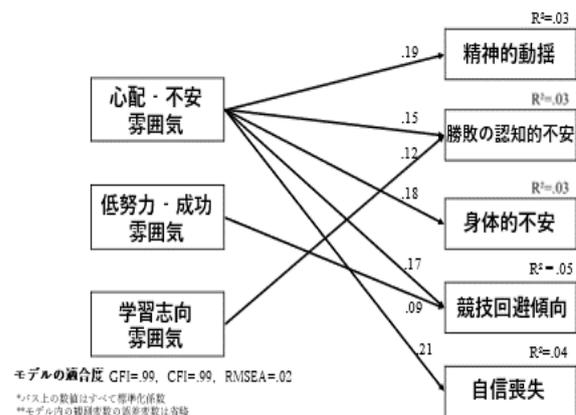


図1 保護者による動機づけ雰囲気と子どもの競技不安の関係

4. 結論

本研究では、高校生において保護者による運動部活動の動機づけ雰囲気が子どもの競技不安に与える影響を明らかにすることを目的とした。その結果、保護者による運動部活動の動機づけ雰囲気が子どもの競技不安に正の影響を与えていることが明らかになった。したがって、保護者による運動部活動の動機づけ雰囲気を子どもが認知しているほど、子どもの競技不安も高まる可能性があることが示唆された。

<参考文献>

- 1) 中須賀巧・阪田俊輔・田中輝海 (2020) 中学校運動部活動における選手が認知する保護者による動機づけ雰囲気が競技不安に与える影響, 兵庫教育大学 研究紀要, 第56巻 : pp.39-44.
- 2) 橋本公雄・徳永幹雄・多々納秀雄・金崎良三 (1993) スポーツにおける競技特性不安尺度 (TAIS) 信頼性と妥当性. 健康科学, 15 : pp.39-49.